

平成20年度北海道ブロック水産業関係研究開発推進会議報告書

会議責任者	北海道区水産研究所長
-------	------------

- 1 開催日時及び場所 日時 平成20年12月11～12日  
場所 KKR ホテル札幌
- 2 出席者所属機関及び人数 17機関 36名
- 3 結果の概要

議 題	結果の概要
【開会】	<p>北水研所長から、燃油問題や試験研究機関における人員・予算の削減など厳しい状況に対し、本推進会議において協議することにより問題解決をはかっていきたいとの開催挨拶があった。</p> <p>引き続き水産庁研究指導課から、水産研究及び技術開発の推進への協力に対し謝意が述べられた。また、漁業が直面している厳しい状況や予算の動向に関する説明並びに、関係機関の連携を基に技術開発の試験研究の重要性をアピールし理解を求めていくことにさらに努力していただきたいとの挨拶があった。</p>
<p>【報告事項】</p> <p>1)各機関からの情勢報告</p> <p>2)平成19年度協議事項のフォローアップ</p>	<p>水産庁研究指導課から、平成21年度予算要求、省エネルギー技術導入促進事業、アサリ資源全国協議会の活動概要、地域水産試験研究振興協議会等について報告があった。</p> <p>北水研所長および道立各水試、道立孵化場の場長から、研究および研究所を巡る最近の情勢および研究課題についての説明があった。その中で、中央水試場長から、平成22年4月の地方独法化に向けて道庁に試験研究機関改革推進会議が設置されたことが報告された。また、道水試の試験調査船を4隻体制から3隻体制へ移行することが検討されていることが報告された。</p> <p>さらに、さけますセンター、東北水研、水工研、中央水研、養殖研、瀬戸内水研からそれぞれ情勢の報告があった。その中で、東北水研から、東北ブロック推進会議で昨年のサケ資源の減少に関して、各県から原因検討のための取組みについて要望が出されたことが報告され、さけますセンターから検討会を開催することを検討したいと回答。</p> <p>北水研業務推進部長から下記のとおり説明し、了承された。</p> <p>1)外部資金の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トド調査は平成20年度から5年計画で開始された。</li> <li>・スケトウダラ日本海北部系群の資源動向要因分析調査は平成21年度以降の課題化に向けている。</li> <li>・技会「温暖化プロ研」拡充課題への応募は不採択。引き続き課題化に向け、努力していく。</li> </ul>

議 題	結果の概要
<p>3) 資源・海洋部会および増養殖部会報告</p>	<p>2) 資源管理研修会の開催 平成 21 年 2 月に研修会開催の予定。</p> <p>3) 海況予測モデルを活用した定期海洋観測の効率化 モデルを有効活用した観測定線デザインの提示について「亜寒帯海洋モニタリング研究会」で検討し、一定の成果を得た。</p> <p>4) 調査船モニタリングパンフレットの作成 パンフレットを作成し、HP で公開し、関係機関に配布した。</p> <p>5) マナマコの人工種苗生産の安定化 水産用医薬品の効能拡大は非常に厳しいが、引き続き情報収集と提供に努める。</p> <p>6) 地域情報の収集と配信体制について 中央水試、水産孵化場と事前に協議を行い、本推進会議で別途提案。</p> <p>資源・海洋部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の漁海況に関するトピックス、道水試および水研センターにおける調査研究を巡る動向、各種競争的資金の獲得への取り組みが報告された。北水研から「海洋データ解析センター」における新たな海況予測モデル開発への取り組みなどが紹介された。各機関とも燃油高騰に伴い、調査船の運航日数が縮減されたことが報告された。</li> <li>・資源動向要因分析調査によるスケトウダラ日本海北部系群の取り組みについては、21 年度予算を申請中であり、道水試に協力を依頼して了承された。</li> <li>・海況予測モデルを活用した定線観測の効率化については、「亜寒帯海洋モニタリング研究会」において具体的取り組みについてさらに検討していくこととした。</li> <li>・北水研から協力依頼した北海道水産気象災害データベースの作成について、北海道の担当部署に関する情報が提供された。</li> <li>・道水試から出された要望については下記のとおり対応することで了承された。 資源管理研修会は 2 月に実施。 ロシアの漁獲量や TAC に関する情報は可能な限り提供。 さけますの耳石温度標識放流調査の情報を提供。</li> </ul> <p>増養殖部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の増養殖に関するトピックス、道水試および水研センターにおける調査研究を巡る動向、各種競争的資金の獲得への取り組みが報告された。道水試では中央水試と網走水試が科研費の機関指定を受けた旨が報告された。</li> <li>・水産用医薬品のマナマコへの効能拡大については厳しい状況であり、引き続き関係機関との情報交換や行政への働きかけに努力することを確認した。</li> <li>・マツカワ交付金プロ研の後継課題の提案については現在検討中で、引き続き関係機関の協力を得て検討していくことを確認。</li> <li>・中国ナマコについては、引き続き情報交換をしていくことを確認した。</li> </ul>



議 題	結果の概要
	<p>に交付金プロ研に応募予定。道水試の参画を依頼し、了承された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磯根研究会(仮称)への取り組み 北水研と道水試の関係者で、対象種の範囲、参集範囲等について検討し、年度内に結論を出すこととした。</li> </ul>
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道ブロック特異現象に関する情報収集体制の整備 近年、異常な現象が多くみられようになったが、過去に同様な現象があったかどうかを調べることは困難。特異現象のデータを収集してデータベースとして保存することが重要と説明。基本的に了承され、平成 20 年度から情報の収集を開始することとした。ただし、当面、情報は非公開とし、情報の公開および、他のブロックとの情報交換については参加機関の間で慎重に検討することとした。</li> <li>・地球温暖化に関わる研究への取り組み 水産庁委託事業「地球温暖化による沿岸漁場環境への影響評価・適応策検討調査」および技会プロ研「地球温暖化が農林水産業に及ぼす影響と適応技術の開発」に関する情報を提供した。</li> </ul>
研究ニーズ	<p>道水試および道立工業技術センターから下記の 4 課題が提出された。北海道ブロック推進会議で協議する課題はなく、関係する推進会議に送付したことを報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー型加工・流通技術の開発</li> <li>未利用資源活用のための加工技術の開発</li> <li>ポビドンヨードに関する情報収集</li> <li>水産系副生物を用いた海洋環境改善技術の研究</li> </ul>
水産研究成果情報	<p>各機関から資源・海洋部会および増養殖部会での検討を経た 10 課題の成果情報が提出された。協議の結果、いずれも成果情報として適当であると判断され、水研センター本部へ提出することとした。</p>

## 会議参加機関

---

### 機 関 名

---

水産庁 増殖推進部 研究指導課  
北海道 水産林務部  
北海道立中央水産試験場  
北海道立函館水産試験場  
北海道立栽培水産試験場  
北海道立釧路水産試験場  
北海道立網走水産試験場  
北海道立稚内水産試験場  
北海道立水産孵化場  
水産総合研究センター 本部  
" 東北区水産研究所  
" 中央水産研究所  
" 瀬戸内海区水産研究所  
" 養殖研究所  
" 水産工学研究所  
" さけますセンター  
" 北海道区水産研究所